

会議録：第5回 出雲崎町立学校の在り方検討委員会

日時： 令和 8 年 9 月 30 日（水） 午後 6 時 30 分 ～ 午後 8 時 05 分

会場： 出雲崎町中央公民館 講堂

参加者： 委員 13 名（欠席 1 名）、事務局 4 名

1 開会

2 長澤委員長あいさつ

これまでの議論で軸としてきた「つながり」（幼保・小中・地域・広域連携）や「地域資源」（歴史・文化・自然・既存施設）を、新しい学校や町の姿とどう結びつけていくかが大切である。

児童生徒数減少や財政などの現実条件を踏まえつつ、会議に参加していない町民にとっても、これまでの検討過程や目指す未来像がはっきりと見え、伝わる形（可視化）にできるよう、本日の議論を深めていきたい。

3 協議事項 議長 副委員長

(1) 第 4 回検討委員会の振り返り

事務局が会議録を基に内容を確認 → 質問、意見はなし

(2) 論点整理案の説明

事務局が論点整理案の概要を説明、解説動画の視聴

(3) グループ協議

論点整理案についての意見交換（追加や修正等の検討）

(4) 各グループからの発表

【A グループ】（代表：A 委員）

- 教育環境のあり方について

- 提言の中で、財政的な根拠や数値的・具体的なデータの提示が必要ではないか。
- 「同一敷地内」とするのか「同一校舎」とするのかについて、より明確な表現が望ましい。
- オンラインを活用した遠隔授業も大切だが、出雲崎町の良さや地域性を出すことが重要である。対面で近隣市町村の子どもたちと直接交流する機会を充実させる視点も取り入れたい。
- **地域との連携について**
 - 開かれた施設として多様な人々が交流する概念は素晴らしい。ただし「どこに立地するのか」「高齢者がどのようにアクセスするか（交通手段）」などを明確にすることで、より現実的かつ魅力的な提案になる。
- **架け橋・接続について**
 - 多目的スペース等を創出し活用することで、子どもや教職員と一緒に体験的に学び、幼稚園・保育園から小学校、小学校から中学校へのスムーズな接続を図る。
 - 家庭教育のあり方を重視し、「小1の壁」などの課題に対する家庭への支援策についても丁寧に説明・提示していくことが大切である。

【B グループ】（代表：B 委員）

- **ハード面**
 - 「子どもまん中」の場所（立地）：「子どもまん中」という理念の中で、施設をどこに設置するのかという「場所（立地）」についての明記がない。町民の関心事でもあるため、提言内に方向性を明確に示す必要があるのではないか。
 - 複合施設・社会教育機能：単なる図書館ではなく、ICT 教育の拠点、文化芸能の中心、放課後児童クラブ、習い事など多目的に利用できる「社会教育施設」「生涯学習施設」としての機能を併設し、昼は学校、夜は地域住民の活動の場として活用できる構想が望ましい。
- **ソフト面**
 - 特色ある教育の明示：全国にある小さな自治体の中でも「出雲崎町ならではの特色ある教育」とは何かが提言内にしっかりと書かれている必要がある。
 - 学習交流と仕掛け：ICT での交流だけでなく、近隣都市部（長岡市や柏崎市など）との対面による学習交流を取り入れるべき。また、子どもたちが意欲を持てるような魅力的なイベントや仕掛けを作り、地域を盛り上げることが重要である。

【C グループ】（代表：C 委員）

- **教育環境のあり方について**
 - 小中学校を一体化する場所は、まちづくりの核や防災拠点（安全面）としての役割を担うべきである。
 - 小中の教員が連携・相互に指導（例：中学校教員が小学校へ行き英語や理科を教える等）することで、教員の専門性向上や学びの質の高まりが期待できる。
 - 交通の便などの問題から町外へ流出してしまう懸念があるため、就学前の家庭が「この町で育てたい」と思えるような小中学校の魅力向上が不可欠である。
- **地域との連携について**
 - 地域と連携し、出雲崎の歴史や文化を学ぶことで「郷土愛」を育てる。
 - **放課後活動の充実**：中学校の部活動の地域クラブ化に伴い、中学生だけの人数では単独での団体競技などが難しいため、小学生も交えて一緒に活動できる仕組みを作ると良い。
- **就学前からの接続・特色ある教育について**
 - 郷土愛の育成に加え、グローバル教育などの視点を取り入れていくことが提案された。

(5) その他 以下、それぞれの事項について事務局より説明

- **パブリックコメントの実施について**

【質問】

協議の中で「建設場所（立地）」や「同一敷地・同一校舎」に関する意見が出されたが、パブリックコメントを実施する段階での扱いはどうなるか。

【回答（事務局）】

今回の「論点整理・提言」としては、これまでの検討委員会で議論してきた範囲（同一敷地・同一校舎が望ましいという方針のレベル）にとどめる。具体的な設置場所（立地）については、今後に持ち越して議論・検討していくこととなる。

【質問】

各グループから「近隣校との対面交流も不可欠、出雲崎ならではの特色ある教育の明確化」についての意見が出たが、この点についての文言は追加されるか。

【回答（事務局）】

基本は現在の論点整理の内容とする。提出された意見を吟味し、どのような形で文言として盛り込めるか検討・調整を行う。

- ・「学校施設の長寿命化計画」について → 質問、意見はなし
- ・11/14（土）シンポジウムの持ち方について → 質問、意見はなし

(6) 講評 委員長

① 発表内容および取り組みに関する所感

- ・「出雲崎ならではの学び」の追求
 - 。 「質が高い学び」をキーワードに、出雲崎にしかない学びの場をどのように構築していくかを参加者全体で考えることが重要である。
- ・ 子育て世代やこども園との連携
 - 。 シンポジウムでの子ども預かり体制は、子育て中の保護者が参加しやすい取組である。こども園の先生方が協力・参画してくれる体制が心強い。

② 解説動画と議論の深め方

- ・ 解説動画から見えた議論の課題
 - 。 生成 AI 活用の解説動画で「物足りなさ」を感じた部分は、裏を返せば「まだ十分に議論できていなかったポイント」を気づかせてくれた。
- ・ 「場所」の特定と構想の整理（コンパクト化）
 - 。 議論において「出雲崎の中のどの場所（施設）で、どのような規模・構成にするか」という具体的な話はまだ不十分であったが、これからの課題となる。
 - 。 提案の足し算で膨らんだ構想（費用や規模）に対し、質を保ちながらコンパクトに形にしていく（たたむ）作業が今後のテーマになる。

③ 「ここにしかない学校」とまちづくりの一体化

- ・ 他地域の先進事例とインクルーシブの観点
 - 。 福島県大熊町：「学校らしくない学校」をテーマに再建。当初は少人数（10人程度）でスタートしたが、魅力ある教育により児童が増加した事例がある。
 - 。 北海道：「世界にひとつの学校」を目指した復興学校の事例
 - 。 誰ひとり取り残さない「インクルーシブ」な観点も含め、「ここでしか学べない魅力」が子どもや人を引きつける。
- ・ 教師が育ち、原点に戻る場

- 新潟県の熱心な教員養成風土に触れつつ、小規模校での教育実践は「教員が教職を選んだ原点を見つめ直し、豊かに育つ機会」になると評価
- 学校と社会教育施設の一体化
 - 「学校の中に社会教育施設を置く」のではなく、「施設そのものが学校である」という逆転の発想が大事である。
 - 子どもたちはクラス等のホームベースを持ちつつ、学びの内容に応じて最も適した場所を選んで学び、地域住民も共に集い学べるような姿を描きたい。

④ 今後の展望と結び

- まちづくりへの発展
 - 学校でどれほど特色ある教育を行っても、町自体に魅力がなければ定住にはつながらない。学校に関する議論を、出雲崎全体の「まちづくり」へと波及・発展させていくチャンネル（経路）づくりが必要である。
- 地域の強みを活かした発信
 - 「戻りたい町」として全国上位に位置する出雲崎のポテンシャル・強みを、学校づくりや地域づくりの情報発信に活かしていくことを期待する。

4 その他

- 11/6（金） 新井南小視察について
- 次回の議題について

5 閉会